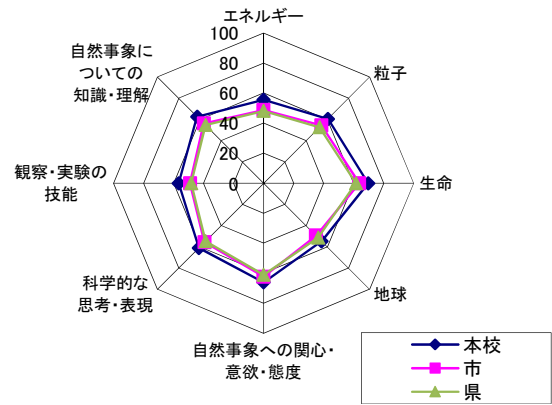


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	55.5	48.8	48.1
	粒子	60.6	54.4	52.6
	生命	69.6	63.7	61.5
	地球	54.6	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.1	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	61.0	55.7	54.8
	観察・実験の技能	56.6	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	62.6	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の性質では、凸レンズを通る光の進み方や像のでき方の正答率が県より10ポイント程度高い。また、音の性質では空気中を音の波が伝わることや音の高低、大小の変化などを概ね理解している。 ●力の性質では、重力とばねの伸びの関係を示すグラフの表現が不十分である。他にも表をもとにばねを選んだり、表やグラフの活用の不十分な所が見られる。	・凸レンズを通る光の進み方や像のでき方については、実験・作図を行い、更に理解を深められるようにする。音の波の伝わり方については、作図で理解を深める。力の性質では実験結果を基にグラフ化する練習を行い、表やグラフの活用を練習し、グラフから分かることの考察を十分に行う。
粒子	○物質の性質では、金属の特徴を理解し、密度をもとに金属を特定することが理解できている。物質の状態変化の仕組みや粒子モデルを使つての表現は理解できている。 ●メスシリンダーの読み方や読んだ値を使って密度を求めることとの正答率は県よりも12.7ポイント高いが、まだ不十分である。また、溶解度のグラフから、水溶液の温度による変化を考えることに課題が残る。	・物質の性質では、粒子モデルでの表現をモデル図の作図を通して理解を深めていく。密度では、数値が示されていれば、それをもとに物質の特定をすることができるが、メスシリンダーや電子天秤の測定値を用いて、式を構築し密度を求める、ということが不十分であり、実験・測定を行いその数値を用いて公式にあてはめ密度を求める活動を行い理解させる。
生命	○植物や動物の分類についてはよく理解できている。両生類の呼吸の仕方については、正答率が88.6ポイントと高く、動物、植物ともに特徴の違いを十分理解できている。 ●植物の根のつくりを図で表すこととの正答率は県より10ポイント程度高いが、正答率が65.8ポイントであり、まだ不十分である。	・資料、映像などを用いて、動植物の特徴を基にした分類について理解を深める。軟体動物の種類分けの具体例を挙げるなどして理解を広げる。動植物の特徴を理解しているので、図で示したり、実物を観察するなどをして理解を深める。 ・植物の根のつくりでは、着眼のポイントをしぼった実物の観察や映像資料の視聴などを通して理解を深める。
地球	○火山岩のでき方、マグマと火山の形の正答率は、県より9.5ポイント高く、概ね理解できている。 ●堆積岩、石基など岩石に関する語句の正答率が県よりは高いものの40ポイントを下回り、理解が不十分である。	・火成岩などの岩石のでき方、マグマと火山の関係性に関しては、映像や粘土を用いた実験・演示などを行い理解を深めていく。岩石に関する基本語句が押さえられていないので、実物の岩石、鉱物の観察などを通して理解を深めていく。